

## 新しい核の秩序構想タスクフォース

### タスクフォース立ち上げの経緯と現状

世界は今、エネルギー供給の逼迫や地球温暖化問題など、深刻な危機に直面している。アジア諸国をはじめ世界各地で増大するエネルギー需要を満たしながら、地球温暖化に対応し二酸化炭素の排出抑制にも取り組んでいくために、原子力の安全かつ安心な利用と、そのための原子力分野における国際協力を促進していくことが、喫緊の課題となっているのである。

同時に、原子力の平和利用技術が軍事転用されると、核拡散や核テロの脅威を増大させるリスクがある。今、我々は、世界経済の持続的発展と地球温暖化問題の解決に貢献するために原子力を活用することと、核拡散や核テロ、そして既存の核兵器の脅威を削減することを両立させるための枠組みを構築するという課題に直面している。原子力の促進と核のリスクへの対処においてバランスのとれたアプローチとはどのようなものなのか。

このような問題意識のもと、(財)日本国際問題研究所は、遠藤哲也・元原子力委員長代理(元在ウィーン国際機関日本政府代表部大使)を座長に、原子力、エネルギー、国際法、安全保障分野における日本の専門家によって構成されるタスクフォースを2006年8月に発足させた。その後、定期的な会合、海外調査や国際ワークショップなどを通じ、最新の国際社会の動向に目を配りつつ、「3S (Safety, Security, and Safeguards)」の概念や、地球温暖化対策として原子力を活用するための枠組みのあり方などについて2008年1月及び2009年4月の2度にわたり政策提言を発信してきた。なお、2008年1月に高村外相(当時)に直接手渡された同提言の内容は、G8洞爺湖サミットの議長総括及び首脳宣言に多くの部分がとり入れられた。

こうした取組みは、日本が自国の原子力プログラムを守るだけでなく、国際的な原子力のあり方を構想し推進するためのリーダーシップの一環としての機能も果たしている。

今年度も提言を取りまとめることを目途に、引き続き研究会を開催している。5月の研究会では、同月にニューヨークの国連本部で行われたNPT運用検討会議準備会合における核軍縮や最近の核不拡散・核軍縮に関する日豪国際委員会などの動向などをふまえ、次回報告書に盛り込む論点が検討された。

過去の報告書をご覧になりたい方はこちら(リンク)

- ・ Atoms for a Sustainable Future: Recommendations on Nuclear Energy in the 21st Century (2009年4月)
- ・ 政策提言：持続可能な未来のための原子力(2008年1月)

概要      要約      英文

